

令和元年度
戸田市まち・ひと・しごと創生
総合戦略効果検証会議

提 言 書

戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議

令和元年12月

目次

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 提言に当たって | 1 |
| 2 | 各事業に対する意見 | 1 |
| | （1）住宅政策事業 | 1 |
| | （2）地域子ども・子育て支援事業 | 2 |
| | （3）就労マッチング事業 | 4 |
| 3 | まとめ～指標に対する事業の有効性～ | 6 |
| | <参考資料> | 7 |
| | 1 戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議要綱 | 7 |
| | 2 令和元年度戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議委員名簿 | 8 |
| | 3 会議開催日 | 8 |

1 提言に当たって

私たちは、戸田市が進めている「戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」について、市長からの依頼を受け、平成30年度に実施した事業の効果等について意見交換を行いました。

本会議は、市民、まちづくりに係る団体等の関係者、産業関係者、学識経験者、金融関係者により構成され、それぞれの立場から多様な意見が出されました。

本会議では、平成30年度に実施した事業のうち、国からの交付金¹を受けた事業等について、検証を行いました。概ね、各事業が順調に進められているものと考えますが、今後、より効果的な事業となるよう、さらに取組を発展させていくことが期待されます。

2 各事業に対する意見

本会議で検証した3事業について、会議における発言に基づき意見を整理しました。既に十分取り組まれている内容もあると思われませんが、改めて重要性等を認識いただくとともに、今後の事業の改善ポイントとして活用してください。

（1）住宅政策事業

①事業に対する評価、今後の事業展開に向けた意見等

- ・実際に空き家バンクを利用したマッチングの実績は0件となっています。若い世代からの問い合わせや利用登録があることから、一定のニーズはあると思われませんが、戸田市の不動産流通は活発な状況であるため、マッチングの実現には至っていないと考えます。
- ・空き家バンクの存在を知りませんでした。周知方法を工夫すべきと思います。住み替えを考える際は、不動産事業者を利用する方が多いと思います。
- ・戸田市の広報を通じて空き家ガイドや空き家バンクといった市の取組があることは知っていましたが、住み替え促進というよりも、空き家を減らしたり、なくすために行なわれる取組と認識していました。
- ・住み替えの際には補助金もありますが、大規模なリフォームが必要なことを考えると、金額が少ないと感じます。
- ・空き家については、若い世代はあまりいいイメージを持っていない人が多いのではないのでしょうか。前にどのような方が住んでいたのか気になる人が多いと思います。まして、空き家バンクに登録されることを想定している物件が、通常不動産として流通しないものであるならば、何かしら問題がある物件と思われ、なおさら敬遠されると思います。
- ・空き家バンクについては、各自治体で独自のサイトを作っているところもありますが、首都圏の他の自治体では、運用開始から10以上年経過しても、利用実績が0件という事例もあります。不動産流通が活発である首都圏においては、現状では空き家バンクを活用することが難しいと思われれます。しかしながら、空き家は今後増えていくと思われるし、空き家を適正に管理することは、行政の責務であると思います。
- ・戸田市の不動産事情を鑑みると、空き家であっても価値があればすぐに流通します。不動産業界としても、古い空き家は解体して新しい物件にするなど、市場のニーズに沿

¹ 地方創生推進交付金

った形に商品化した上で提供しています。

・地方創生といった観点で進めている事業ですが、戸田市は首都圏であるため、空き家バンクが盛んに利用されているような地方とは状況が異なるため、異なるアプローチの仕方を考えてもよいのではないのでしょうか。

・戸田市は、地の利がよく、SDGs（持続可能な開発目標）先進度ランキングでも、首都圏において4位となっています。これは、子育てに関する事業をはじめとした、戸田市が今まで取り組んできた成果であると思いますし、その結果の一つとして、不動産市場での人気の高さにつながっていると思われます。それゆえ、他の自治体と比較すると、戸田市は新規の物件が数多く流通している状況です。

・例えば、空き家を活用した取組として、宿泊施設などに改装したりすることで、空き家の利活用が行われているケースもありますが、これは、地方で実施例を目にするものであり、首都圏ではあまり聞かない取組です。

・空き家バンクに物件を登録すること自体が、ネガティブな印象に捉われるのではないかといった懸念があります。今後、少子高齢化が進み、空き家が増えると思いますが、登録を想定しているのは何かしらの理由があり、流通市場で売れなかった物件となります。登録することに対し、ネガティブな印象を与えないような工夫をする必要があります。

・戸田市では、町会の方と協力しながら、空き家のパトロールを実施しており、今後も、空き家の管理不良が発生しないように、「予防」といった観点から、適正管理を進めていくこととなっています。このような取組を進めるとともに、作成した空き家ガイドなどについて、積極的に周知を行っていただきたいと思います。

②まとめ

・戸田市としての住宅政策事業の位置付けを、環境的側面や、景観的側面から考える必要があります。空き家の発生に対し、どのように対応していくかが、今後の課題になると考えます。

・若い世代の転出抑制といった点では、指標的に効果が出ているとは言い難い面がありますが、今後、空き家が増えることによって、いわゆる「危険空き家」も増え、まちの景観が損なわれるなどの問題が生じる可能性があります。したがって、本事業によって空き家対策を進めることは、中長期的視点で見ると、流通はもちろんのこと、管理の面で今後の効果が期待できますし、有効な取組と考えます。

・本事業は、民間との連携が必要不可欠な取組となっていますので、今後も官民連携といった観点を持ちながら、事業を進めていく必要があります。

（２）地域子ども・子育て支援事業

①事業に対する評価、今後の事業展開に向けた意見等

・産前産後支援ヘルプサービス事業は、実際に利用しましたが、申請期限が7日前までと、出産のタイミングと合わない場合もあります。ヘルパーとの委託契約の関係上、やむを得ないものと思いますが、申請期限を短くしてもらえると、よりよい事業になると思います。また、出産時にとても役に立つ事業なので、周知を徹底していただきたいと思います。

・子育て支援センターを利用する方は、活動などを通じていわゆる「ママ友」をはじめとした交流の輪が増えますが、毎回同じ方が利用している印象があります。リピーターが多く、メンバーが固定化していると、子育て支援センターを初めて利用する人は、行きづらいつ感じるようです。

・子育て支援センターでは、基本的に室内における活動が中心となっています。2歳児以降は活発になり、室内では狭く危険な場合もあります。保育園によっては、公園に集合する日もありますが、月に1回程度となっています。外での活動が充実すると、よりよい事業になると思います。

・こども家庭相談センター事業では、子どもの健診に合わせて相談事業を行うことを通じ、家庭児童全般に係る相談業務を進めていますが、そもそも健診があるということを知らない人や、何かしらの事情で子どもが健診に来ないケースもあります。広報による周知も必要ですが、来ない人のチェックや見守りを強化する必要もあります。

・不動産業界で勤務する人や民生委員などは、業務を通じて様々な情報を知っています。個人情報に関する問題があると思いますが、そういった情報を行政が把握することは、子どもの安全や子育ての安心につながると思います。したがって、情報共有の在り方や情報の活用方法などについて、見直すべきと考えます。

・経営者という観点から考えると、子育てに関連する事業者は、今後、少子高齢化が進むと、対象者が減るため、経営が難しくなります。そのような観点も踏まえながら、本事業の内容を長期的に考える必要があります。例えば、学童保育所の事業者について財務分析を行うと、補助金を活用して何とか経営できるような状況であり、補助金が維持されないと、事業者の負担が多くなり、事業継続は難しくなるのが現実的な状況です。

・戸田市は、子育てに関する評価は高いです。今までの待ちのスタンスから、訪問するスタンスとなったこともあり、早めのアプローチが行われています。今後も、他の自治体の取組を研究しながら、必要に応じて子育てに関する取組を強化していただきたいといます。

・戸田市は、地域的な問題もありますが、子どもを外で遊ばせる場所が少ないと感じます。また、外で遊ばせる際は、親と一緒に付き添う必要がある状況です。子どもたちの自主性を育み、生き生きと活動するための遊び場である「プレーパーク」のような場所が必要と感じています。現状では、月に1回彩湖・道満グリーンパークで開かれる程度であり、回数が少ない状況です。戸田市の子育てしやすい環境を、よりよいものとするため、このような場所を整える取組も併せて必要といます。

・子育て世帯は、「プレーパーク」のような場所があると活用すると思います。また、そのような場所があることで、同じ環境にある人が集うため、新たな地域のつながりが生まれることが見込まれます。

・学校の放課後における子どもの預け先などについては、とても悩ましい問題です。昔は広場などが充実しており、子ども達だけで遊んだりして、楽しかった印象がありますが、そのような環境が減っている状況です。今の子どもは「自分で転んだら自分で起きる」ことができない子が増えた印象を受けますが、遊べる環境の減少も要因の一つでは

ないかと考えます。小さいときに緑に囲まれた環境に触れると、地元への愛着も育まれると思いますし、想像力も豊かになるのではないのでしょうか。

・地域子育て支援拠点事業について、開設のスケジュールをなるべく早く市のホームページなどを通じて情報提供していただきたいと思います。また、その他の取組も含めて、情報発信は非常に重要な観点であることから、迅速かつ的確な対応が求められます。

・こども家庭相談センター事業について、相談を受けた合計件数だけではなく、その内容と傾向を分析することが重要です。相談の中身について共有を図り、どのように対応していくかを考える必要があります。

・学校の先生など、職員の方は、今の放課後の現状についてどのように感じているのか調査してもいいのではないのでしょうか。今後は、学校の先生と連携して、のびのびと子育てができるまちを目指していく必要があります。

②まとめ

・こども家庭相談センター訪問件数が減っている状況について、内容を検証する必要があります。単純に訪問してもらいたい方が減っているのであればよい状況と言えますが、情報を知らない人や、健診を受けることができない人もいるという点を踏まえると、利用者が減少し、ニーズが減少しているとは言い切れません。さらに、こども家庭相談センターの年間延べ相談件数が毎年増加している状況です。したがって、必ずしも訪問件数の減少がいいこととは限らないという考え方のもと、取組を進める必要があります。

・子育て支援は、NPOや市内関係機関、事業者など民間との連携により進めることが効果的ですが、人員不足や経営難といった問題も発生している現状があります。このような観点からも、今後の事業展開を考えていく必要があります。

(3) 就労マッチング事業

①事業に対する評価、今後の事業展開に向けた意見等

・就労マッチングといった事業そのものは重要ですが、マッチングについては、就労者側だけではなく、企業側のニーズも把握することが必要です。今後は企業に対するアプローチも強化することが求められます。

・戸田市には、「オレンジキューブ」といった、「起業」を支援する施設が商工会にあります。会社勤務になじめない人に対しては、働き方の一つとして「起業」という選択肢を案内することも考えられます。

・せっかく就労しても、離職率が高くては効果がありません。企業側のニーズと、就労者側のニーズをしっかりと把握した上で、マッチングを行う必要があります。

・子育て世代としては、空いた時間に仕事をしたいと思いますが、例えば急な発熱など、どうしても急遽出勤できなくなるケースが多くなることから、フルタイムで勤務するのが難しい実情があります。

・子どもがある程度大きくなると、時間に余裕も生まれ、空いた時間で働こうと思いますが、求人情報を見ても、子育て中で時間の制約があることを踏まえると、条件のいい内容の求人がなかなか見つからない状況です。また、ハローワークによる求人情報よりも、民間企業の求人情報のほうが、内容がよいと感じます。

・企業を経営している視点からの意見となりますが、資格や技術があつて、営業もできるようなスキルがある人が、企業として求める人材となります。一方で、子育て中の方が短時間で働きたいと希望され、実際に採用したこともあります。短い時間の勤務については、企業としても非常に悩むところです。経営者と就労者、両者の視点からマッチングを行うことは、とても重要であると思います。

・就労者と企業とのマッチングは、難しい問題です。事例を挙げますと、いわゆる就労ミスマッチを理由として、入社後ほどなく退職し、「企業が学生に内情を伝えていない」と感じたことから、民間の職業紹介会社に転職した人がいました。職業紹介会社は「企業側」と「学生側」で、窓口が分かれており、その人は、同じ退職経験を学生にさせたくないという思いで、「企業側」の窓口を担当しているとのこと。企業は、入社しないと内情が分からないというケースが多いのが実情ですが、就労希望者が実際にどのような仕事や会社を求めているかを踏まえ、企業側のポイントとなる情報（社風など）を提供する必要があります。

・就労者のニーズに応える企業が、必ずしも市内にあるとは限りません。就労マッチングは、本人が満足することが重要だと思いますので、「ふるさとハローワーク」だけではなく、別の視点から就労のマッチングについての支援を考えてもよいのではないのでしょうか。

・経営者は、昨今進んでいる働き方改革などにより、人員不足と感じている人が多い状況です。金融機関でも、人材紹介やマッチング事業を進めているところがありますが、現状として、人を確保することは、重要な課題となっています。

・就労支援セミナーについては、企業側としては、技術を持っている人を求める傾向があることから、セミナー等を通じ、参加者の技能などを育てていくことは、よいことだと思います。

・本事業におけるハローワークの位置付けは、総合戦略の策定時から、検討事項となっていました。戸田市では、ふるさとハローワークの窓口時間の延長を検討していましたが、実現しなかったという経緯があります。情報の多様化に伴い、就職に関する情報の入手方法なども多様化している中、ハローワークを利用して就職する人の数や民間の職業紹介を行う会社が利用されている現状を踏まえると、致し方ないことと思います。

②まとめ

・就労マッチングは、力を入れて取り組むべき内容であると思います。市内の企業のために、官民連携を行い、情報共有などを進めながら取り組むべきものであると思いますので、今後も、事業を続けていく必要があると考えます。

・ハローワークとの関係性やその位置付けについては、政策自体の再検討を踏まえた上で、内容を改めて考える必要があります。

3 まとめ～指標に対する事業の有効性～

各事業には、達成すべき目標となる指標及び目標値が設定されています。本会議では、目標値に対する実績値を踏まえ、各事業が目標達成に有効であったかどうか評価しました（指標に対する事業の評価）。評価に当たっては、本会議において、各事業における意見交換の内容を総合的に勘案し、判断しました。

各事業の評価は下表のとおりです。

表1 事業別「指標に対する事業の評価」

| No | 事業名 | 指標に対する 取組の有効 性 ¹ |
|----|---------------|-----------------------------------|
| 1 | 住宅政策事業 | 1 |
| 2 | 地域子ども・子育て支援事業 | 1 |
| 3 | 就労マッチング事業 | 1 |

全ての事業について、指標達成に対して有効な取組だったと評価しました。

一方で、各事業の検証の結果、今後の事業展開に対する様々な意見が出されました。指標に対する取組の有効性の判断には、これらの意見が、各事業において十分検討され、より大きな成果につながることへの期待が込められています。

この提言書が、今後の総合戦略の推進及び見直しを図る際に最大限尊重され、戸田市の地方創生の実現に向けて、より良い事業展開に生かされるよう望みます。

¹ 各事業において設定された指標の達成に対し、取組内容が有効であったか評価。

【選択肢】 1：指標達成に対して有効であった。 2：指標達成に対して有効とは言えない。

<参 考 資 料>

1 戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議要綱

平成28年10月17日市長決裁

(設置)

第1条 戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）に係る施策や事業等の効果を検証し、総合戦略の推進及び見直しを行うため、戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議（以下「検証会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 検証会議は、次に掲げる事項について意見交換を行い、市長に結果を報告する。

- (1) 総合戦略に係る施策や事業等の効果検証に関すること
- (2) 総合戦略の推進及び見直しに関すること
- (3) その他総合戦略の効果検証及び推進に関し必要な事項

(組織)

第3条 検証会議は、委員8名以内で組織し、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 市民
- (2) まちづくりに係る団体等の関係者
- (3) 産業関係者
- (4) 学識経験者
- (5) 金融関係者
- (6) その他市長が必要と認めた者

(任期)

第4条 委員の任期は、依頼の日から当該年度の末日までとし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 検証会議に会長及び副会長を置く。

- 2 会長は委員の互選によるものとし、副会長は会長が指名するものとする。
- 3 会長は、会務を総理し、検証会議を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検証会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、その議長となる。ただし、会長が選任されるまでの間は、市長が招集し、総務部経営企画課が進行するものとする。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 市長又は会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 検証会議の庶務は、総務部経営企画課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年10月17日から施行する。

2 令和元年度戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議委員名簿

(敬称略)

| No | 区分 | 所属団体等 | 氏名 |
|----|-----------------|-----------------------------|-------------|
| 1 | 市民委員 | (有) エグチホーム企画 代表取締役 | 江口 雅子 |
| 2 | まちづくりに係る団体等の関係者 | はつらつお母さんの勉強室 | 稲垣 亜貴 |
| 3 | まちづくりに係る団体等の関係者 | はつらつお母さんの勉強室 | 加藤 由紀 |
| 4 | 産業関係者 | 第4期戸田市中小企業振興会議委員 中小企業診断士 | 坂上 成人 |
| 5 | 学識経験者 | 明治大学経営学部 教授 | 藤江 昌嗣 (会長) |
| 6 | 金融関係者 | 埼玉りそな銀行戸田支店 支店長 | 木村 文彦 (副会長) |

3 会議開催日

令和元年11月1日 (金)